

レポートの構成

次に論文の基本構成となるパターンを頭に入れておきましょう。

ここでは2つのパターンを紹介します。1年の最初のころに出される書評レポートや報告書などは、本格的な論文と言うよりは、高校の小論文に近いものなので、序論、本論、結論の一番おおまかな3部構成を意識しながら書いていきましょう。

もう少し慣れてきたら、本格的なレポート形式に慣れていきましょう。大学で書くレポートは論文の一種ですので、専門学術雑誌の論文形式の基本的なルールとパターンが一番正式なものです。徐々に正式な論文の形を習得していくために、ここではその学術論文の形式も合わせて紹介します（裏面）。

課題で出されるレポートの種類によっては、より作文に近いものもあります。ここでは少し長めの本格的なレポートをイメージしてください。少し長めのレポートは専門学術雑誌の基本構成形式で書いた方がより正式な形になります。

専門や授業、課題を出される先生の意図によって、レポートの構成はこれ以外にも様々な形をとる場合もあります。まずは先生の指示をよく読んでください。

【論文の構成例】

1. レポートの基本構成 = 序論、本論、結論（まとめ）の3部構成

(1) こうだと考える (2) なぜならこうだから (3) やはりそうだったでしょ（+でもまだ疑問あり）

(1) 序論（はじめに）・・・できるだけ大事なことは最初に言うておく。

目的 このレポートで「何を」とりあげ、「どういうことを」明らかにしようとしているのか、レポートの目的を明らかにします。

ここでは、自分が持っている「問い」をはっきりと書きます。

(仮説) できれば、序論の段階で自分の考えや立場を示しておきましょう。

「問い」に対する「答え」にあたる部分がある程度先に示しておけば、読んでいる相手にも最後まで何を書こうとしているのかわからない、といった印象を持たれることはないし、これから書いていく際にどんどん話が別の方向にいつてしまうという事態も防げます。

方法 さらにこれからどういう順番で、どういう資料を使って書いていくのかを先にまとめて書いておくことより親切です。分野によっては、先行研究をここで整理しておくことを要求します。

(2) 本論・・・実際に集めた資料をもとに、自分の考えや主張の根拠を説明する。

説明と論拠 どうしてそう自分が考えたのか、その理由と根拠をあげて詳しく説明していきます。

論拠として他の人の研究結果や論文をあげた場合は、引用や要約、その人の見解が正しいかどうかの検討などを、自分で実験や調査をした場合は、調査の結果としてのデータ、データの分析、その解釈などを書きます。

(3) 結論（まとめ）・・・全体のポイントと結論を再確認

要約と結論確認 これまで述べてきたポイントを再度まとめます。自分の書いてきたことの反省点も含め、自分の考えたことが正しく証明されてきたか、今回わかったことは何かを再度、検討します。

今後の課題 今回わかったことを踏まえ、どのような論議が残されているのか、さらに疑問に感じたこと、調べていきたいことがある場合、ここでそれを書いてしめくります。

2. 学術論文を意識した基本構成 = 5つの構成要素

(戸田山 和久「論文の教室」NHK Books より)

- (0) 「私はいくらもの、これを書きます」 (表題、著者名、所属)
- (1) 「こういうことをやりました」 (アブストラクト・要約)
- (2) 「こんなことを疑問におもって」「こう考えました」「なぜならこうだから」 (問い) (答え) (論証)
- (3) 「結局こんなことがわかりました」 (まとめ)
- (4) 「使わせていただいた資料は以下の通り」 (注、引用、参考文献リスト)

(0) 表題・著者名・著者の所属機関

レポートの場合は表紙に書くか、最初の3行を使って「タイトル」「著者名」「所属機関」を書きます。

学生の場合は、学部・学科(専攻)、学籍番号、氏名を書き入れます。

「タイトル」は、一般的、抽象的な題名ではなく、何をどう明らかにしようとしているのかが具体的にイメージできるような題名にします。

★わかりやすいタイトル・・・ 「中世魔女裁判はなぜ起こったか」

「青少年育成条令は適切に運用されているか」

★わかりにくいタイトル・・・

「中世の魔女裁判」「青少年健全育成条令について」

(1) アブストラクト(要約)

学術雑誌の論文には、必ず本文に入る前に(後の場合もある)論文全体を読まなくても、一番大事な論点が把握できるようにアブストラクト(要約)がついています。これは単にあらすじとしての要約ではなく、「問い」「答え」「論証」、つまり何についてどう捉え、それをどう証明していったか、という要点を簡潔にまとめます。

(2) 本体

論文の本体となる部分です、これはさらに3つの要素からできています。

① 問題提起 「問い」にあたる部分を十分に説明しておきます。何について、どう取り組むのか、その背景、現状分析、関連する用語や問題の重要性などを説明し、なぜこれを取り上げたのかが納得してもらえるように書きます。

② 主張 「答え」にあたる部分です。「問い」に対する自分の立場・考え方を示します。

③ 論証 「問い」に対して自分の「答え」がどうして正しいかを根拠を挙げながら説明します。

この③つをどう組み合わせるのかについては、3つのパターンがあります。

A. 「こう思う、なぜなら式」 問い→答え→論証

B. 「わからなくて色々調べた結果、こんな答えが出た式」 問い→論証(調査・分析)→答え

C. 「これはおかしい、わたしはこう、なぜなら式」 問い→先行研究批判→答え→論証

(3) まとめ

最後にもう一度わかったことを一言でまとめてしめくくります。

今回出来なかったこと、新たに出てきた問題点などを書き、今回の自分の論文がどういう意味をもつのかを自分で評価します。

(4) 注、引用・参考文献一覧

注や引用の仕方については、「引用のしかた編」「参考文献のあげ方編」を参照。